２０１０年度　奈良県高等学校人権教育研究会

くらしと進路研究委員会　　総括

はじめに

昨年度は現地研修として、単位制高校のクラーク国際記念高校を訪問して、自らの進路を目指して頑張っている高校生の姿に触れることができた。今年度は、高校生の進路を阻む大きな要因としての『貧困』に目を向け、『ＨＲ実践に学ぶ反貧困学習』を研究テーマとすることに決まり、『反貧困』をテーマにしたＨＲを展開される磯城野高校の実践に学びつつ研修を深めることとなった。

取り組みの経過

	日　時	場　所	内　容
1	５月２８日　（金）	橿原市中央公民館	座長の決定、役割分担、研修内容の検討
2	６月１１日　（金）	橿原市中央公民館	磯城野高校のＨＲ計画について
3	６月２５日　（金）	橿原市中央公民館	『貧困』をテーマとした書籍紹介を踏まえた研究討議
4	１０月２２日（金）	橿原市中央公民館	DVD『ホームレス中学生』視聴 磯城野高校『貧困と人権』ＨＲに学ぶ
5	１０月２７日（水）	磯城野高等学校	講演会：ＮＰＯ法人『もやい』大関輝一氏
6	１月１４日　（金）	橿原市中央公民館	湯浅誠氏特別講演会からの報告と討議 一年のまとめ

書籍紹介

「反貧困」をテーマとした書籍を一人一冊選び、それぞれの視点でＡ４一枚にまとめたものを持ち寄った。

『子どもの貧困～日本の不公平を考える～』阿部彩（岩波新書）
『反貧困～すべり台社会からの脱出』湯浅誠（岩波新書）
『ホームレス問題：何が問われているのか』小玉徹（岩波ブックレット）
『正社員が没落する：貧困スパイラルを止めろ』湯浅誠・堤未果（角川書店）
『ルポ・雇用劣化不況』竹信三恵子（岩波新書）

『今日、派遣をクビになった』増田明利（彩図社）
『ネットカフェ難民と貧困ニッポン』水島宏明（日本テレビ）
『貧困に負けない、生きる力をつける～定時制の現場から』宮下与兵衛（平和文化出版）
『答えは現場にあり』大畑誠也（パルス出版）
以上の書籍の紹介（ダイジェスト）を受けて、質疑応答・意見交換を行った。また、磯城野高校の對馬先生よりＨＲ資料の提供を受けた。

磯城野高校の『貧困と人権』ＨＲ学習

①学習の方針
『貧困』と高校生の関わりを中心にして取り組み、単なる「紹介」だけに終わらないようにする。また、ここで取り扱う問題はこれから自分が社会で生きていく上で、深く関わってくることとしてとらえさせる。
②学習のねらい
・第三世界（アフリカ、アジア、ラテンアメリカなど）の絶対的貧困の状況を知る学習を通して、戦争が貧困を生む最大の要因の一つであることを理解させる。
・貧困の連鎖を断ち切るために、「今できること」、「今しておくべきこと」などを考えさせる。
・急激な社会情勢に対する政府系セーフティーネットの存在とその内容を知る。
・大阪府立西成高校の『反貧困学習』の取り組みを参考にして、生徒が自尊感情（自分に対する自信と誇り）を持てるようにする。
・生徒や家族が抱える諸問題の調査や就学保障を確かにするための有効な取り組みを検討する。
・生徒に自分を相対的に見つめられる視座を持たせて、将来の自己実現に向けた建設的かつ計画的な人生設計をできるようにさせる。
③取り組みの流れ
・５～８月：指導案の検討
・６月：秋の人権講演会に向けた講師の選定
　　本委員会からは上記書籍の著者に加え西原理恵子氏を講師として推薦した。
・８月：夏期職員研修会
・９月：指導案をベースにした学年研修会
・１０月：人権講演会
・９月、１０月、１１月に１回ずつＨＲ（DVD『ホームレス中学生』のダイジェスト版視聴も含む）

DVD『ホームレス中学生』視聴

お笑いコンビ「麒麟」の田村裕さんの中学時代の生活体験に基づくベストセラー『ホームレス中学生』を映画化したもの。田村さんが中学生になった頃は、「バブル崩壊」により企業が不況の中でリストラを始めた時代でした。その後の「失われた２０年」というデフレ時代が長期間続き、２００１年からの「構造改革」が非正規雇用の労働者の増大をもたらすことになった。視聴にあたっては、家族の生活の場である「家」がある日突然なくなって外に放り出されてしまい、「家」という存在の重みに気づかされるということに加え、近年ホームレスやネットカフェ難民と呼ばれる人々を食い物にしている「貧困ビジネス」についても生徒に考えさせることが大切である。

人権講演会― NPO 法人「もやい」の活動とそこから見えてくるもの

磁城野高校での NPO 法人「もやい」の大関輝一氏の講演会に、当委員会も参加させていただき、貴重なお話を聞かせていただいた。当初はアパートの保証人になることを中心に活動をしていた「もやい」だが、生活に困っている様々な人々の相談に乗るようになった。富士山の樹海で命を絶とうとしたが踏みとどまり相談に来られた方、夫婦で新聞配達をしていて６才と８才の子どもを抱えて追いつめられたケース、また最近話題となるＤＶに関わる相談に応じることも増えてきた。高校生に向けての講演会ということで、後半は今後の展望として少し明るいお話をしていただき、大きく３つの提言にまとめられた。

①ギリギリまで耐えるのではなく、相談に来てほしい。困ったときは「助けてください」と発信することが大切である。

②今後の日本あるいは世界を考えるとき、「農業」の復権が最重要事項である（ 磁城野高校が農業に力を入れていることも意識されてか？）。今のところ、食糧に困る人は一部の人々ではあるが、やがて日本人全体に及ぶという状況も考えておいてほしい。

③もはや与えられた雇用ばかりに依存できる社会ではない。一人一人が「起業」を考えてみてはどうだろうか。例えば、喫茶店に入ってみて、「起業者」の立場から人の流れや経営状態などを眺めてみると、また別のものが見えてくることもある。

講演は、始めるにあたり、NPO 法人「もやい」の名前の由来について、船と船をしっかりと結びつけておくための太綱の結び方だと教えていただいた。大関氏は「反貧困」について語る中で、「もやい」が船と船をしっかりと結びつけているように、人と人とがしっかりと結びついていく絆が大切だということを根底において伝えてくださった。

まとめ

最近の貧困から来る悲惨な事件等を見聞きする中で、高校生を取り巻く経済情勢が好転しそうもなく、具体的な解決策も見えてこない。政治にそれを求めることは根気よく続けていかねばならないのは当然だが、すぐに解決するとは思えない。そのような閉塞的な状況で、貧困の現実ををしっかりと見据え解消していくために何が不可欠かを追求してきた１年間であった。「もやい」の大関氏が講演で指摘されていたように、「外部」に助けを求めることは絶対に忘れてはならないことだろう。その上で、「自己責任」という言葉で片づけられてしまう状況に負けてしまうのではなく、生徒一人一人が「自尊感情」を持ち「自己実現」に向けて人生設計をする「生きる力」を身につけることが大切である。そのために生徒の進路保障や就職支援などを通して、生徒により一層寄り添っていく具体的方策が必要である。その意味で磁城野高校のＨＲ実践には教えられることが多かった。また、映画「ホームレス中学生」を視聴することで、人と人とのつながりの大切さを痛感した。一人一人がバラバラで孤立せざるを得ない社会になりつつあるが、その流れを変える地域社会の関わりも今以上に求められのではないだろうか。われわれ教員も「人と人とのつながり」という視点を人権教育の中核にしっかりと据えていくことが大切だと痛感した。